
第19回 通常総会 議案書

日 時 2026年2月21日（土）16時00分～

場 所 そらち炭鉱の記憶マネジメントセンター
岩見沢市1条西4丁目3 ☎0126-24-9901

1. 開 会
2. 理事長あいさつ
3. 議長・議事録署名人の選任
4. 議案審議
 - 第1号議案 2025年事業活動報告
 - 第2号議案 2025年活動決算報告、監査報告
 - 第3号議案 2026年事業活動計画
 - 第4号議案 2026年活動予算
5. 議長退任
6. 閉 会

第1号議案 2025年事業活動報告(2025年1月1日~12月31日)

当NPOの設立から19年目を迎えた2025年は、夕張市石炭博物館の7年ぶりの模擬坑道復旧により予想を超える活況に恵まれました。また「炭鉄港」の日本遺産認定継続審査がありましたが、各方面の尽力の結果、認定継続のみならず、重点支援地域に選定されるなど良き節目を迎えることができました。更には当NPOが牽引する形で〈炭鉄港3-DAYS Weekender〉のキックオフができたことは大きく、これまで各地で独立していた点を面に転換しうる一助になると考えています。

NPO単体事業としても、主催、関連イベント等も数多く実施し、密度の濃い1年となりました。また講演やガイド、授業受け入れ等の依頼数も大きく伸び、炭鉱の歴史文化を礎とする炭鉄港の概念が地域価値として昇華する可能性を更に強めた1年となりました。

以下、事業ごとの2025年の活動についてご報告いたします。

※活動計画に対する達成度：○=達成 △=途上 ×=未了

※拠点の略称：MC=マネジメントセンター、CM=夕張市石炭博物館

■出版事業

×できませんでした

■情報発信事業

○会報誌 2025/07/01付 No25発行

○動画配信 YouTubeチャンネル動画4本、ショート動画9本、炭鉄港3-DAYSの3日目には約5時間のライブ配信を実施。この他、FacebookやXなどでもイベントや石蔵企画等の告知を発信。

登録者数は昨年の470名から630名弱に増加し、道外の方など新たなファンの獲得に繋がっています。

○Web ホームページ、ブログ等の更新、投稿を継続しています。

■炭鉱遺産事業

○ぶらぶらまち歩きの実施

定番を9回、スペシャル回を4回の合計13回実施し、延べ人数395名の参加者がありました。(2024年は全23回、715名) ※定員を設定している回も有り。会員のリピート参加が多くなってきています。

○炭鉱の灯りの実施

毎年続けている「炭鉱の灯り」、23回目は7月26日に夕張の石炭の大露頭前広場で行いました。炭鉱に関わった多くの先人たちへの祈りを捧げるとともに、この地域で活動させて頂いている感謝の気持ちを込めて、キャンドルを灯しました。

○奔別立坑周辺の利活用に向けた取り組み

敷地公開は5/4から5/6全3回、延べ355名参加。このうちガイドツアー参加(500円)は181名。8/13から8/15全3回、延べ285名参加。このうちガイドツアー参加143名。

敷地公開前の4月にはNPO会員を募って、草刈り・ゴミ拾いなどの周辺整備を実施。20名近い方にお手伝いいただきました。

○石碑等既存物に対する取り組み

倒壊して倉庫に保管されてあった万字炭山駅の駅碑を、修復し万字炭山森林公園に再設置するまで平野理事長が先導しました。

○各種活動団体等との連携

炭鉄港に関係する団体との取り組みが増えています。主に次のような団体と連携を進めました。

- 2月 空知ワイン協会：空知ワイン協議会フォーラムに平野理事長がパネリストとして登壇
- 6月 北海道シーニックバイウェイ北海道推進協議会：空知シーニックバイウェイ会議参加
- 7月 唐松駅地域住民有志団体：唐松駅舎美観運動参加
- 8月 岩見沢市教育委員会：郷土科学館学芸員、展示相談
- 8月 炭鉄港推進協議会：歌志内炭鉄港日本遺産登録 式典・祝賀会参加
- 8月 三笠ジオパーク推進協議会：炭鉱出身者の聞き取り調査
- 9月 岩見沢 SL 保存会：写真展、イベント打ち合わせ
- 9月 炭鉄港推進協議会：いわみざわ情熱フェスティバル「炭鉄港めしフェスタ」に出店
- 9月 株式会社ノーザンクロス：旧永山邸講演会講師
- 10月 赤平コミュニティガイドクラブ TANtan20 周年コラボぶらぶら歩き
- 10月 炭鉄港推進協議会：炭鉄港アートプロジェクト シンポジウムに酒井が登壇
- 12月 札幌市生涯学習センターちえりあ：炭鉄港講師派遣 ZOOM 会議

△ドイツ・ルール地域協会の空知訪問対応

来年度に実施変更（4月17日予定）となりました。

■学術支援事業

○歴史的経緯を踏まえた鹿児島との交流継続に向けた取り組み

11月に会員限定九州視察ツアーとして、20名で鹿児島の尚古集成館等を訪問しました。

○地域シンクタンクとしての展開

- 2月 イタリア人の炭鉱町研究者から空知地域の状況についてインタビュー
- 4月 岩田地崎建設と朝日炭鉱跡地の活用について意見交換会
- 6月 無印良品から展示相談
- 7月 美流渡中学校の活用に向けた打ち合わせ
- 10月 「令和7年度インフラツーリズム勉強会」（旭川）、北海道開発局開発監理部（石川）
- 11月 韓国からの団体の産炭地域訪問

○教育機関との連携

炭鉄港出前授業や現地見学の実施、相談等、特に岩見沢の学校からの依頼が多く、毎年好評を得ており、教育分野での活動も活発化しています。主な教育機関からの依頼としては次のようなものが挙げられます。

- 5月 北海学園高校 岩見沢駅、朝日炭鉱周辺ガイド 2班 80名
- 5月 北海高等学校 創立140年記念講演（北海の創立と炭鉄港） 約1,300名
- 5月 岩見沢市立第一小学校 5年生 MC訪問 57名（2班目は6月）
- 5月 郁文館高校 講座と駅周辺ガイド 57名
- 6月 夕張高校 1年生 炭鉄港講座 23名
- 6月 岩見沢市立中央小学校 6年生 駅周辺ガイド 61名
- 7月 岩見沢市立日の出小学校 市内散策フィールドワーク 45名
- 7月 岩見沢市立清園中学校 1年生 炭鉄港講座 32名
- 7月 岩見沢市立清園中学校 1年生 フィールドワーク 32名

- 8月 北海道教育大学岩見沢校 訪問 16名
- 9月 岩見沢市立緑中学校 生徒訪問
- 9月 岩見沢市立東光中学校1年生 炭鉄港出前講座 79名／万字線沿いバスツアー 85名
- 10月 岩見沢市北真小学校4年生 駅周辺フィールドワーク 19名
- 10月 岩見沢市第一小学校 石蔵見学 60名
- 10月 全道高校生写真展・大会 訪問協力
- 10月 岩見沢市立明成中学1年生 インタビュー訪問 5名
- 10月 岩見沢市立北村中学1年生 インタビュー訪問 5名
- 11月 岩見沢市立志文小学校4年生 駅周辺ガイド 20名

○日本遺産認定継続に向けた支援

炭鉄港推進協議会からの依頼や相談等にも積極的に対応しました。NPOの炭鉄港に関連した活動は、認定継続と重点支援地域選定に繋がる一翼を担ったと思います。

○各種フォーラム等の開催

10月 講演会「上砂川水力採炭講演会」元三井砂川炭鉱職員の方を講師に、かみすながわ炭鉱館にて開催しました。定員40名

○炭鉄港まちづくり講座の継続

太田顧問講師による「活かす炭鉄港」まちづくり講座 2月に2回、3月に1回バス研修を実施。各回定員18名。対象は前年の講座参加者、NPO会員、炭鉄港ガイド登録者としました。

- 1回目（栗山―安平―室蘭）
- 2回目（江別―小樽）
- 3回目（歌志内―芦別―夕張）

■市民団体連携事業

○《炭鉄港》などを通じた他管内の機関・団体（企業含む）との連携協力

様々な団体や場所での依頼が増加傾向にあります。主な活動としては次のようなものが挙げられます。

- 1月 札幌ストリームホテルより日本遺産活用について相談
- 1月 岩見沢市技能協議会炭鉄港講演 約150名
- 3月 日本航空北海道支社社内研修講演 35名
- 5月 北海道地方自治研究所 炭鉱遺産視察2日間ガイド 3名
- 5月 空知町村会炭鉄港出前講座（秩父別）55名
- 6月 美唄ロータリークラブ炭鉄港講演 25名
- 6月 美唄市郷土史料館炭鉄港講座 35名
- 6月 小樽市日本遺産ガイド研修 100名
- 7月 早来老人クラブ柏会 炭鉄港講座 27名
- 7月 岩見沢河川事務所炭鉄港講座 28名
- 7月 雪の市民会議 駅周辺ガイド 20名
- 7月 歌志内市炭鉄港出前講座 62名
- 8月 北海道開発局講演会講座80名+オンライン100名
- 8月 空知総合振興局生活課インターン生訪問 2名（9月にも2名）
- 10月 江別市生涯学習課 蒼樹大学座学150名／炭鉱遺産見学ツアー35名
- 10月 江別市生涯学習課 炭鉄港講座と炭鉱遺産見学ツアー14名
- 10月 FMラジオカロスに炭鉄港PRの出演
- 10月 日本遺産フェスティバル（倉敷）ミニシンポジウムにパネリストとして平野理事長が登壇

10月 名鉄観光「炭鉄港インバウンドモニターツアー」炭鉄港解説（石川）

12月 インバウンド講演（名鉄観光）講師 6名

○各地活動主体と連携し「炭鉄港 3-DAYS」の実施

3日間全体で6,681名の参加者。当日NPOでは操車場跡見学、朝日本坑・駅舎見学、石蔵鉄道写真展、駅周辺ショートガイドツアーを担当。3日目の石蔵では11:00から5時間通しでYouTubeライブ配信を実施しました。NPO会員にもガイドや係員として多大な協力をいただきました。

○国内外の関係者・団体への対応

炭鉱や「炭鉄港」について問い合わせや取材（新聞、テレビ、ラジオなど）、多様なアクセスがあり、これに積極的に対応しました。

■拠点活動事業

○そらち炭鉱の記憶マネジメントセンターの質的充実

MC入館者数 2025年1月～12月 3,692名（2024年4,278名、2023年4,446名、2022年4,773名）

昨年度は炭鉄港カード配布や石蔵でのイベント（石蔵ゼミやお話の会）がなかった事も影響したのか、来館者数は減少しました。10月だけみると600名を超える来館者がありました。

○石蔵での企画

- ～3/16 「鳥瞰図展」
- 3/22～3/30 「三松拓真さん石炭アート展」／22日に三松さんアーティストトーク&ゲストトーク
- 4/24～5/22 「山下僚写真展・軍艦島」
- 6/21～9月末 「炭鉄港構成文化財を知る」
- 10/2 「吉田のこの石蔵ライブ」
- 10/13 「炭鉄港 3-DAYS 企画・石蔵スタジオ」
- 10/10～12/26 「さようならSL50年コラボ・石蔵鉄道写真展」

○その他

岩見沢市のふるさと納税返礼品「炭鉱の記憶グッズセット・24,000円」には3件の申し込みがありました。立坑タオルの新色とオリジナルポーチの販売開始、鳥瞰図の販売は約50本の実績でした。

■ヘリテージツーリズム事業

△各団体、個人より、炭鉱跡地ガイドツアーやまち歩きツアーの企画相談を受けました。

■石炭博物館事業

《指定管理業務の総括》

2025年シーズンは、石炭博物館指定管理者受託2期目の3年度目（通算7年度目）でした。模擬坑道の再開により、入館者数は昨年比83%増の33,449名となり、今期の目標を45%上回ることができました。大幅増加の要因として、模擬坑道火災によって認知度および再開への期待が高まっていた中で、報道機関各社が高い頻度で再開を報じたことに加え、模擬坑道閉鎖中も再開の際の再訪を促し続けた個々のスタッフの地道なコミュニケーションの効果も加わった結果と判断しております。

模擬坑道の再開は、運営体制にも変化をもたらしました。坑道内の安全管理および簡易な解説に対応するため、模擬坑道に1名を配置し、代わりに昨年まで継続していた30分間隔のドラムカッター実演運転を10分間の繰返し放映による動画解説に移行しました。お盆時期以降に実施した模擬坑道のミニガイドツアーは、入館者から高く評価されたと判断しております。

人的資源の点では、3月末で夕張市地域おこし協力隊員1名の欠員が生じたほか、シルバー人材センターの解散に伴うスタッフの確保に課題が生じました。そこで、新たなスタッフの補充および多客時の駐車場整理員の緊急補充などにより、サービス水準の確保に努めました。あわせて石川館長ほか理事（平野、酒井）による交代助働体制により、入館者の大幅増加に対応しつつ、客足の減少する時期には人員体制を見直す（コスト削減）などして、指定管理業務の着実な実施体制を継続することができました。

以下に当期事業計画の項目別の活動状況をお示しします。

■出版事業（博物館公式ガイドブック、夕張鉄道創立100年図録）

△原稿まで作成しました。

■模擬坑道再開に対応した展示、解説（ガイド等）の積極展開及び、そのための体制強化

○坑内の解説掲示およびミニガイドツアー（お盆時期、9月以降の土日祝日）を実施しました。

○模擬坑道担当スタッフの補充および、多客時に理事らによる模擬坑道内外での解説を実施しました。

■博物館の質的充実に向けた取り組み（展示内容の拡充、外部環境整備への協力など）

○展示内容：特別企画展に「北炭」、「炭鉄港」のパネル展示を追加したほか、2階常設展に石炭細工の展示を追加するなどして、多様な理解や興味の増進を図りました。ご来館者から賜った寄付金を活用して汚損した地下展示室のマネキンの衣装を新調（購入、作製）しました。

○外部環境：天龍坑前の防草シート設置による歩行環境改善、駐車場の区画線追加整備による駐車環境改善、支障木の伐採による排水環境改善を図りました。

■特別企画展「模擬坑道再開記念 坑道、坑口、採炭…、炭鉱のイロハ」ほか、各種展示及びイベント開催

○特別企画展は通期で開催し、模擬坑道及び炭鉱に関する知識の理解増進の一助とすることができました。

○イベントや催事については、以下の実施および参加・協力を行いました。

<催事：当館主催・実施>

・プレオープン・夕張市民無料デー（4/7,8）

・オープニングセレモニー（4/19）

・短冊に託す「七夕の願い」（7/2～8/16）

・「炭鉱の灯り」大露頭前広場で実施（7/26）

・セブンイレブン・ジャパン「夏休み体験バスツアー」：館内ガイド・絵日記作成（7/29）

・炭鉄港 3-DAYS「ドラムカッター実演運転・解説」（10/11～13、5回/日）

・炭鉄港 3-DAYS「模擬坑道真っ暗体験」（10/11～13、16時台）

<催事：参加・協力>

・「炭鉄港カード」第5弾（ホログラムカード No.69）、入館者に配付（7/1～9/5 終了）

・「夕張メロンラン」協力：参加者入館割引（7/6）

・旧車イベント「バリバリ夕張チャリティーミーティング」：小学生分を主催者が負担（7/20）

・「南そらちスマホスタンプラリー」（8/1～10/26）

・JAF MATE「J A Fデー」協力：参加者入館割引（8/2）

・コスプレイベント『North コスプレ in 夕張“バリコス”』：参加者入館割引（8/30）

・さようなら SL50 周年記念復刻駅スタンプラリー（9/1～11/3）

■夕張鉄道及び夕張線「さようなら SL50 年」に関する展示

○9月上旬より「さようなら SL50 年記念」の写真展を開催し、撮影者の写真集を販売したほか、スタンプラリーや市内廃線跡や当館ガイドを含む貸切列車運行との連携を図ることができました。

■販売商品の拡充

- 入館料の新たな取り組みとして、シーズンを通じ入館可能な年間パスポート（2,000円）を新設し、想定を大幅に上回る発行実績をあげ、当館ほか夕張市へのリピーターの確保に貢献しました。
- 当館オリジナルのトートバッグや不織布バッグ、石炭入りのキーホルダー、カプセルトイなどを新規追加し、商品ラインナップの拡充および売上げの増加を図りました。

■夕張市内の回遊・入込向上に向けた取り組み

- 模擬坑道の再開を機とした各種メディアの取材等に対応したほか、国外のスペシャルツアーへの対応を行いました。

<取材>

- ・道内TV・新聞各社：石炭博物館模擬坑道再開に関連する報道に対応（主に3月～5月）
- ・道外紙（掲載）：中日新聞社系列（三社連合）、産経新聞社、朝日新聞社、長崎新聞社
- ・月刊情報誌：北方ジャーナル（6月号）、月刊クオリティ（11月号）

<国外の団体等への対応>

- ・台湾文化部及び活動団体「北海道地方創生見学団」、石炭博物館見学、意見交換会（7/24）
- ・名鉄観光「炭鉄港インバウンドモニターツアー」 石炭博物館見学（11/2）

■館内ガイドツアー、まち歩きツアー等の開催（支援・主催）

- 博物館の内外におけるガイドツアーの主催や支援を通じて、炭鉱や地域の理解を深めることができました。
 - ・「神通坑」冬のスペシャル炭鉱(ヤマ)歩き（2/23）
 - ・スペシャルぶらぶら炭鉱(ヤマ)歩き「旧北炭大新坑跡ガイドツアー」（5/18）
 - ・夏休み自由研究「夕張の石炭と炭鉱、館内無料ガイドツアー」（8/3～18の7日間）
 - ・「模擬坑道ミニガイド」（8/13～17、9/6～11/3の土日祝日、5～6回/日）
 - ・ぶらぶらまち歩きスペシャル「夕張石炭の歴史村ガイドツアー」（9/28）
 - ・空知総合振興局「さようならSL50年記念列車ツアー」、夕張市内、石炭博物館ガイド（11/2）

■教育関係行事等への支援・協力

- 夕張市の小中学校における授業等への協力のほか、を行いました。
 - ・夕張市立夕張中学校 達人授業 24名（7/3）
 - ・夕張市立ゆうばり小学校 炭鉄港と夕張 22名（8/27）

■会務

○会員サービスの実施

2月の会員交流会の実施、イベント等での会員価格、先行予約の設定、10月の会員限定露天堀現場&発電所バスツアー、11月の会員限定九州視察ツアーの実施など、会員サービスの向上に努めました。

○各種会員拡大に向けた取り組み

会員サービスの実施により、新規の一般会員は28名、運営会員は3名の入会がありました。

○会員数

2025年12月末 総数=414名（2024年末423名、2023年末379名、2022年末343名）
運営会員=58名（2024年末54名、2023年末58名、2022年末53名）
一般会員=329名（2024年末341名、2023年末293名、2022年末266名）
賛助会員=27社（2024年末28社、2023年末28社、2022年末24社）

2025年 特定非営利活動に係る事業会計 財産目録
2025年12月31日現在

単位：円

科 目	金 額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金	232,006	
郵便振替口座	3,197,151	
普通預金 ゆうちょ銀行	10,223,524	
普通預金 北洋銀行	2,852,699	
普通預金 空知信用金庫	90,199	
普通預金 北海道労働金庫	8,810	
普通預金 北洋銀行 [石博]	7,812,910	
現金・預金小計	24,417,299	
売掛金	694,204	
貯蔵品	232,881	
前払費用 [家賃]	150,000	
仮払金	302,278	
流動資産合計		25,796,662
2 固定資産		
建物付属設備	199,100	
工具器具備品	1,582,022	
減価償却累計額	△ 1,673,537	
有形固定資産小計	107,585	
敷 金	102,000	
出資金 [空知信用金庫]	50,000	
投資その他の資産小計	152,000	
固定資産合計		259,585
資産合計		26,056,247
II 負債の部		
1 流動負債		
未払金 [電力料・社会保険他]	2,098,066	
未払費用	744,108	
預り金	593,667	
仮受金	52,386	
未払い法人税	4,163,000	
未払い消費税	2,379,500	
流動負債合計		10,030,727
2 固定負債	0	
固定負債合計		0
負債合計		10,030,727
III 正味財産の部		
正味財産合計		16,025,520

2025年 その他事業会計 財産目録

2025年12月31日現在

該当事項なし

2025年 特定非営利活動に係る事業会計 貸借対照表
2025年12月31日現在

単位：円

科 目	金 額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金	232,006	
普通預金 ゆうちょ銀行	10,223,524	
郵便振替口座	3,197,151	
普通預金 北洋銀行	2,852,699	
普通預金 空知信用金庫	90,199	
普通預金 北海道労働金庫	8,810	
普通預金 北洋銀行 [石博]	7,812,910	
現金・預金小計	24,417,299	
売掛金	694,204	
貯蔵品	232,881	
前払費用 [家賃]	150,000	
仮払金	302,278	
流動資産合計	25,796,662	
2 固定資産		
建物付属設備	199,100	
工具器具備品	1,582,022	
減価償却累計額	△ 1,673,537	
有形固定資産小計	107,585	
敷 金	102,000	
出資金 [空知信用金庫]	50,000	
投資その他の資産小計	152,000	
固定資産合計	259,585	
資産合計		26,056,247
II 負債の部		
1 流動負債		
未払金 [電力料・社会保険他]	2,098,066	
未払費用	744,108	
預り金	593,667	
仮受金	52,386	
未払い法人税	4,163,000	
未払い消費税	2,379,500	
流動負債合計	10,030,727	
2 固定負債	0	
固定負債合計	0	
負債合計		10,030,727
III 正味財産の部		
1 前期繰越正味財産	7,521,095	
2 当期正味財産増加額	8,504,425	
正味財産合計		16,025,520
負債および正味財産		26,056,247

2025年 その他事業会計 貸借対照表
2025年12月31日現在

該当事項なし

2025年 特定非営利活動に係る事業会計 活動計算書
2025年1月1日～2025年12月31日

単位：円

科 目	金 額	
I 経常収益		
1. 受取会費		
受取会費		2,293,000
2. 受取寄付金		
受取寄付金		1,498,994
3. 事業収益		
商品・書籍・飲食販売	5,218,023	
ガイドツアー	1,692,440	
業務受託	1,299,800	
指定管理	13,930,750	
入館料	35,879,600	
講演・執筆他	267,560	
その他	1,410,100	59,698,273
4. 助成金	0	0
5. 補助金		
地域づくり総合交付金	500,000	500,000
6. その他収益		
受取利息	21,436	
雑収益	133,548	154,984
経常収益合計		<u>64,145,251</u>
II 経常費用		
1. 事業費		
(1)人件費		
給料手当	14,584,307	
法定福利費	1,758,135	
雑給	300,575	
人件費計	16,643,017	
(2)その他経費		
売上原価	3,926,863	
謝金	341,300	
通信費	623,211	
光熱用水費	10,714,533	
旅費交通費	1,402,700	
旅費日当	35,000	
広告宣伝費	189,565	
交際費	96,347	
会議費	190,116	
消耗品費	1,794,034	
図書費	92,600	
印刷費	575,246	
修繕費	652,300	
地代家賃	853,419	
保険料	406,626	

委託料	4,200,940		
租税公課	3,287,916		
諸会費	201,000		
賃借料	286,506		
支払手数料	593,680		
職員研修費	194,810		
雑費	28,358		
減価償却費	53,792		
その他経費計	30,740,862		
事業費合計		47,383,879	
2. 管理費			
(1)人件費			
給料手当	0		
役員報酬	3,930,000		
人件費計	3,930,000		
(2)その他経費			
謝金	0		
通信費	11,590		
旅費交通費	113,540		
会議費	0		
消耗品費	0		
租税公課	821		
支払手数料	165		
雑費	35,341		
その他経費計	161,457		
管理費合計		4,091,457	
経常費用合計			51,475,336
III 経常外損益			0
税引前当期正味財産増加額			12,669,915
法人税・住民税・事業税			4,165,490
当期正味財産増減額			8,504,425
前期繰越正味財産額			7,521,095
当期正味財産合計			16,025,520

2025年その他事業会計 活動計算書
2025年1月1日～2025年12月31日

該当事項なし

参考資料

2025年度部門別活動計算書

2025年 特定非営利活動に係る事業会計 活動計算書 【非収益部門】
2025年1月1日～2025年12月31日

科 目	金 額	
I 経常収益		
1. 受取会費		2,293,000
2. 受取寄付金		1,498,994
3. 事業収益		69,000
4. 受取補助金		500,000
5. その他収益		5,159
経常収益合計		4,366,153
II 経常費用		
1. 事業費		
(1)人件費	4,246,472	
(2)その他経費	2,360,056	
経常費用合計		6,606,528
税引前当期正味財産増加額		△ 2,240,375

2025年 特定非営利活動に係る事業会計 活動計算書 【収益部門】
2025年1月1日～2025年12月31日

科 目	金 額	
I 経常収益		
1. 事業収益		59,629,273
2. 受取補助		0
3. その他収益		149,825
経常収益合計		59,779,098
II 経常費用		
1. 事業費		
(1) 人件費	12,396,545	
(2) その他経費	28,542,229	
事業費計		40,938,774
2. 管理費		
(1) 人件費 (役員報酬)	3,930,000	
経常費用合計		44,868,774
税引前当期正味財産増加額		14,910,324
法人税・住民税・事業税		4,165,490
当期正味財産増減額		10,744,834

第3号議案 2026年活動計画（2026年1月1日～12月31日）

本年も「炭鉄港」と「夕張市石炭博物館」の2本柱を軸とし、相乗効果を高めていくとともに、「炭鉄港」が地域価値の向上にどう貢献できるのかを広げる年であると位置づけます。そのためにもファン層の拡大（V）と質の向上（Q）のバランスを考慮しながら各事業展開を行っていく予定であり、その具現化のひとつとして、炭鉄港 3-DAYS Weekender を活用し、広域で共通の価値観を共有できるように務めていきます。また、他団体や会員相互の連携、活躍を重視しながら、当 NPO の使命でもある「炭鉄遺産を活用した地域活性化」を目指していきます。

■出版事業

- ・炭鉄港公式ガイドテキストをベースに、新たな炭鉄港ガイドブックの出版を目指す

■情報配信

- 〈会報誌〉年1回の「情報」発行・送付を実施する（必要に応じて臨時号も発行）
- 〈動画配信〉当 NPO の活動を身近に感じていただくと共に、炭鉄港等の価値の向上に資する YouTube 動画配信の継続実施
- 〈web〉主ホームページの適宜更新、各種 SNS の積極活用を継続する

■炭鉄遺産事業

- ・各種ぶらぶらまち歩きや講演、研修会等の実施
- ・奔別立坑周辺の利活用に向けた取り組み
- ・石碑や案内看板等に対する取り組み
- ・各種活動団体等との連携
- ・ドイツ・ルール地域協会の空知訪問対応

■学術支援事業

- ・歴史的経緯を踏まえた鹿児島との交流
- ・地域シンクタンクとしての展開
 - 「空知地域地方自治体の地域再創造プラン（まちづくり計画）策定に係るサポート事業」検討
- ・教育機関との連携
- ・各種フォーラム等の開催

■市民団体等連携事業

- ・炭鉄港などを通じた他管内の機関・団体、企業含との連携協力
- ・各地活動主体と連携し「炭鉄港 3-DAYS Weekender 2026」の実施
- ・国内外の関係者・団体への対応

■拠点活動事業

- ・そらち炭鉱の記憶マネジメントセンターの質的充実と認知度向上
- ・会員による運営支援の実施

■ヘリテージツーリズム事業

- ・必要に応じた協力を実施

■石炭博物館事業

- ・出版事業

1)夕張市石炭博物館公式ガイドブックの出版を目指す

2)「夕張鉄道 100 年」(令和 6 年度特別企画展「夕張鉄道創立 100 年」の内容を編集)の出版を目指す

3)ライマンの「Geological Survey of Yesso」の炭鉄港エリア(室蘭から札幌を経て神居古潭まで)の探険記録の和訳の出版を目指す

- ・模擬坑道における展示、解説(ガイド等)の積極展開
- ・博物館の質的充実に向けた取り組み(体制強化、展示内容の拡充、内部・外部環境整備など)
- ・特別企画展「(仮)知ってる?石炭」ほか各種展示及び関連イベントの開催
- ・「夕張鉄道開業 100 年」に関する展示
- ・販売商品の拡充
- ・夕張市内の回遊・入込向上に向けた取り組み
- ・館内ガイドツアー、まち歩きツアー等の開催
- ・教育関係行事等への支援・協力

■NPO 設立 20 年記念事業

■会務

- ・会員サービスの実施(会員特典の充実、研修の機会)
- ・各種会員拡大に向けた取り組み

監査報告書

2026年02月03日

特定非営利活動法人 炭鉱の記憶推進事業団

理事長 平野義文 様

特定非営利活動法人 炭鉱の記憶推進事業団

監事 加藤 愉 朗



監事 三上 秀 雄



2025年01月01日から2025年12月31日までの2025年（第19期）における、会計および業務の監査の結果について、下記の通り報告いたします。

監査意見

1. 財産目録、貸借対照表および活動計算書は、会計帳簿の記載と一致し、特定非営利活動法人の損益および財務の状況を、正しく示しているものと認めます。
2. 事業報告書の内容は、真実であると認めます。
3. 理事の職務執行に関する不正の行為または法令・定款に違反する重大な事実はないと認めます。

以 上

第4号議案 2026年度活動予算

2026年 特定非営利活動に係る事業会計 活動予算書
2026年1月1日～2026年12月31日

科 目	金 額 (円)	主要な細項目 (千円)
I 経常収益		
1. 受取会費	2,300,000	運営500、一般700、賛助1,100
2. 受取寄付金	1,000,000	
3. 事業収益	45,600,000	物販4,000、CM40,600、ツアー1,000
4. 受託業務	1,000,000	三笠調査1,000
5. 補助金	0	
6. 受取利息	0	
7. その他事業からの繰入金	0	
経常収益合計	49,900,000	
II 経常費用		
1 事業費		
人件費	14,000,000	MC4,000、CM10,000
経費 出版事業	300,000	仕入書籍売上原価50
遺産保全活用事業	300,000	
学術支援事業	800,000	三笠市調査700
市民団体連携事業	300,000	MC原価、市民活動支援
拠点施設運営事業	2,400,000	光熱用水費など経常経費
炭鉄港関連事業	500,000	
その他の事業	500,000	NPO設立20年記念準備
石炭博物館事業	17,000,000	
事業費小計	36,100,000	
2 管理費		
人件費	6,300,000	
その他経費	4,060,000	会議旅費100、消費税2,060、事務委託1,900
管理費小計	10,360,000	
経常費用合計	46,460,000	
法人税・住民税・事業税	3,440,000	
当期正味財産増加額	0	
前期繰越正味財産額	16,025,520	
当期正味財産合計	16,025,520	

2026年その他事業会計 収支予算書
2026年1月1日～2026年12月31日

該当事項なし